＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

# むしくさアートプロジェクト

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 第１章　プロジェクトの概要など

１．プロジェクトの名称、目的など

・名称「むしくさアートプロジェクト」

・目的

このプロジェクトでは、大学内の“むしくさ”に目を向けるきっかけになることを第一の目的とし、その発信方法として美術科だからこそできる表現を考えた。

京都教育大学には様々なかたちの自然がたくさん存在している。その豊かな緑は多くの虫の生きる場所となり、時には害虫と呼ばれる蚊やムカデなどの虫が私たちの目の前に現れるのだ。その結果、折角ある素晴らしい自然のなか虫や草は興味を持たれることの少ないどころか、むしろ疎まれる存在になってしまっているように思う。

しかし、気が付かないだけで虫や草たちには素晴らしい魅力が秘められているのである。そんな虫や草の「おもしろさ・うつくしさ・たのしさ」の調査・発信を、美術科ならではの方法で行う。

２．代表者および構成員

・代表者

玉置彩香　　美術教育専修　Ｍ１

・構成員

伊計加奈子　美術教育専修　Ｍ１

李玥　　美術教育専修　Ｍ１

久下浩人　　美術教育専修　Ｍ２

森澤奈央　　美術教育専修　Ｍ２

３．助言教員

日野陽子先生（美術科）

## 第２章　内容や実施経過など

１．調査・表現研究

6 月

まず、学内にどのようなむしくさが存在しているのかを調べるため、春から学内をまわり調査した。主に写真で記録した。このとき、生態学研究室が公表している確認種リスト(1)と照らし合わせて確認済みの種であるかチェックした。数種類未確認の昆虫を発見する。

6 月後半～7 月頃

虫と触れ合い観察し、息を止めた虫を見つけた場合には標本用に保管、植物はときに採集するなどして表現を研究していく。このとき、学内の苔を一部採取して苔玉の試作品をつくる。夏休みに入る頃には紙漉きなどの実践をした。また、合同で何か作品を作ることができないかと構成員全員で「学内のときめく花」をテーマに写真を制作する。

8 月以降

各々表現方法を練り、制作を進めた。

感染対策のため基本的には個人で活動を行った。

11 月

ギャラリーＡＮＡＧＵＲＡでの展示が決定する。

12 月

ギャラリーＡＮＡＧＵＲＡにて 10 日間の展示

２．制作風景（一部）

## 第３章　結果や成果など

１．<u>ギャラリーＡＮＡＧＵＲＡでの展示</u>

期間・場所

2021/12/14㈫～2021/12/23㈭

Ｄ棟１階ギャラリーＡＮＡＧＵＲＡ

２．展示作品（一部）

## 第４章　まとめと反省、今後の展望など

１．調査について

６月から行った調査でたくさんの種類のむしくさが大学内に存在する事がわかった。しかし、写真としてデータは保存していたが、すべてのむしくさの同定や発見場所・時間帯などを記録・データ化する

ことができなかった。種の名前、発見場所、時間帯など様々な情報をデータベース化することができれば、このプロジェクト以外の場面にも活用出来たり、これからの表現研究の強い助けになるかもしれない。

調査をする中で、生物学研究室でも確認されていない昆虫を発見した際に「学内で発見した」ということを確認する証明がなかったためにリストに入れることができなかった。リストに入れることができる条件を確認し、再度出会った時にはリストに名前を並べたい。

２．制作・展示について

プロジェクト発足当初は紙媒体での読み物としてフリーペーパー発信したいと考えていたが、それぞれ作品制作としての表現研究に力が入り、予定していたフリーペーパー制作ができなかった。しかし、その代わりに個人の表現研究に力を入れることができ、むしくさに興味を持ってもらえるような面白い作品作りができた。

12 月 14 日から 23 日まで、計 10 日間の展示期間の間に美術科のみならず様々な学科、年齢の人々がギャラリーに足を運んでくれた。

この展示をするにあたって、見る人の声を聴くまでは“むし”の部分に心配があった。植物に比べ、虫は苦手意識や嫌悪を感じる人が多いのではないかと考えていたからである。しかし、実際に展示をしてみると「虫は苦手だったけど、作品になると綺麗だったり、おもしろいと思った」「虫の標本で、生命の美しさを感じた。これなら虫の苦手な子でも入りこみやすいなと思った。」などの意見を頂くことができた。また、展示ポスターにはカノコガとゴマダラカミキリのイラストが描かれていたが、そのデザインについても似た意見が複数寄せられた。意外なことに”作品”として完成された”むし”への好意的な意見が多かったことから、生きている虫から作品になった”むし”までの間のどこに嫌悪の境界があるのか調べてみたくなった。また、別の機会にその調査方法を考えていきたい。

また、今回の展示では感想を尋ねるアンケートを設置しなかったので、直接もらった感想と発表会後の意見しか聴くことができなかった。次に展示をするときには多くの反応を受け取りたいため、必ずアンケートを設置したいと考えている。

３．伝えること

むしくさのおもしろさを伝えるためには、もっと多く発信の機会を設けるべきだった。

展示というかたちで発信することはできたが、ギャラリーＡＮＡＧＵＲＡがＤ棟１階の階段付近という少しわかりづらい、一部の学生しか訪れないエリアだったため、限られた人々にしか発信することができなかった。

調査や表現研究をしている間にたくさんの写真を撮っていたので、それらをＳＮＳなどで定期的に発信することができればさらに多くの人にむしくさのおもしろさを伝えていくことができるのではと考える。

４．今後の展望

（１）より広くむしくさを知ってもらうために

・ＳＮＳなどでの発信を定期的に行う

Twitter や instagram などの SNS アカウントを作成し、日々の調査や制作の様子を発信する。

・今回できなかったフリーペーパー制作・頒布

学級新聞のミニサイズ版のようなむしくさの面白さを伝える内容のフリーペーパーをつくり、あちこちに設置する。冊子としても制作したい。

（２）理科との連携

活動をしていく中で、理科を専門とするひとの意見が欲しいと感じることが度々あった。

メンバーが全員美術教育専修の院生で生物が専門でなかったため、むしくさの同定が難しかった。同定したものであっても、それが間違ってはいないかどうかの意見を頂くことができたら、より深くおもしろい表現につなげていくことができるのではないかと考えた。

また、制作前の調査で様々な虫を見つけることができたことから、昆虫の確認済みリストの充実にも

貢献したいと考えている。

次に何かこのような活動をする際には、さらに内容に深みを出すため生物を専門とする方にご協力を仰ぎたい。そして、このプロジェクトは美術と理科の両方の内容であるので、教科横断的な活動としても発展させていきたい。また理科に限らず、他の教科とも少しずつ繋がっていく内容であると考えるので、視野を広く持ち、教科横断的な教育と関連させていく活動も行っていきたい。

**＜参考・引用文献＞**

参考・引用文献など

１　京都教育大学　生物学研究室（http://natsci.kyokyo-u.ac.jp/~imai/index.php/）